

学年	高校1年	教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2
教科書名		書道 I (東京書籍)		副教材名	硬筆レッスン帳 (教育図書)		
コース・クラス		中高一貫					

I. 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

II. 授業のねらい

- ・用具用材の特徴を理解し、適切に扱えるようにする態度を養う。
- ・古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得する。
- ・字形の構造を理解し、全体の構成を工夫できるようにする。
- ・意図に基づく表現を構想し、工夫できるようにする。
- ・日常生活における書への関心を高め、その効用を理解できるようにする。
- ・見ることを楽しみ、書の美しさと表現効果を味わい、感じ取ることができるようにする。
- ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する態度を養う。
- ・漢字の書体の変遷、仮名の成立等を理解する態度を育てる。

III. 授業の進め方

- ・書の知識と実技について、全体説明と個人指導を行う。
- ・古典臨書を基にした創作を適宜行う。
- ・実用書、硬筆の練習を適宜行う。

IV. 学習上の留意点

- ・書道道具を必ず持参する。
- ・指示に従って作品を提出する。
- ・技術の鍛錬、知識の習得、美的感覚の向上を図る。

V. 定期試験

- ・定期試験期間中のテストは行わず、作品提出や実技テスト、授業内小テストを行う。

VI. 評価の方法

- ・授業内での提出作品、單元ごとの実技テストによる評価、忘れ物、授業態度など。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	ガイドダンス「書写から書道へ」 基本点画の練習	作品提出 実技テスト 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な筆使いを理解して書くことができる。 ・長く楷書の基本として尊ばれてきた唐代の楷書の美を理解して、各作品の特徴を捉えて臨書できる。 ・北魏時代の楷書の特徴や文化、表現の多様性を理解し、創造的な表現に生かすことができる。
	5	漢字 楷書の書風 表現を比べよう ・「九成宮醴泉銘」、「孔子廟堂碑」、「雁塔聖教序」、「自書告身」の臨書 ・実技テスト		
	6	・「牛欄像造記」の臨書 ・実技テスト		
一学期	9	行書 行書の特徴 ・「蘭亭序」の臨書 ・実技テスト	作品提出 実技テスト 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の特徴を理解し、多様な書風に関心をもつ。 ・「書聖」と呼ばれる王羲之の書の臨書を通して、行書の特徴を捉える。 ・草書の書かれた背景を理解して臨書に取り組む。 ・隷書の書かれた背景を理解して臨書に取り組む。 ・篆書の書かれた背景を理解して臨書に取り組む。 ・書の一分野としての篆刻に興味を持ち、適切な技法によって制作することができる。
	10	草書 草書の特徴 ・「真草千字文」の臨書		
	11	隷書 隷書の特徴 ・「曹全碑」の臨書		
	12	篆書 篆書の特徴 ・「泰山刻石」の臨書 ・実技テスト 篆刻		
二学期	1	仮名の書 ・仮名の成立と種類 ・仮名の基本的な筆使い	作品提出 実技テスト 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名書の用具用材の扱い方、姿勢、執筆法を理解して書くことができる。 ・古筆の執筆法や表現を理解して臨書できる。
	2	・仮名字源、平仮名单体の臨書 ・仮名字源と単体のテスト		
	3	・古筆の臨書		

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。